

令和7年度

個別学力検査(後期日程)

【情報学群 知識情報・図書館学類】

区 分	
小論文	問題1 問1 ＜出題意図＞ 論理的思考力、表現力をみる。 ＜解答例＞ 2000年代では、不読率が大幅に減少していく一方で平均読書冊数は増加しており、両者には負の相関関係があると考えられる。しかし2010年以降は、平均読書冊数は増加しているが、不読率にはあまり変化がみられず、横ばいの傾向にあり、相関関係はみられない。(123字) 問2 ＜出題意図＞ 論理的思考力、理解力を見る。 ＜解答例＞ (1) 小学生 2000年:書籍 51.7%、雑誌 48.3% 2022年:書籍 80.0%、雑誌 20.0% 高校生 2000年:書籍 20.6%、雑誌 79.4% 2022年:書籍 48.5%、雑誌 51.5% (2) 小学生は、2000年には書籍と雑誌の割合は同程度であり、2022年には雑誌数が大きく減少し書籍数は伸びた。その結果書籍の割合が8割となり、読書冊数の合計も増加した。高校生は、2000年には雑誌の割合が8割であったが、2022年にかけて読書冊数が大きく減少した。その一方で書籍の読書冊数は横ばいであったため、書籍と雑誌が同程度の割合になった。(170字) 問3 ＜出題意図＞ 論理的思考力、理解力、表現力、発想力を見る。 ＜解答例＞ インターネットの普及により、雑誌が提供していたニュースや趣味の話題といった情報の入手や、雑誌上での人々の交流が、動画サイトや SNS などネット上で行われるようになり、雑誌を購入する必要性が低下したため。(98字) 問4 ＜出題意図＞ 論理的思考力、理解力、表現力、発想力を見る。 ＜解答例＞ 図5を見ると、電子書籍や電子雑誌は小規模なままである一方で、電子出版市場ではコミックの売上が大きく伸びている。私自身、電子出版についてはマンガアプリへの支払いが多く、スマートフォンやタブレットで気軽に読めるコンテンツが好ましいと感じるため、この傾向は続くと考え。他方で、電子書籍市場が伸び悩み、紙の書籍市場が微減に留まっている点にも注目すべきだ。電子書籍は手軽に購入できるが、所有欲が満たされないため、好きな作品であれば紙で所

	有したいと考える人も多い。また時間をかけて深い理解を目指す読書にも、紙の出版物は向いており、これらの目的を満たす書籍は紙媒体で存続するだろう。(285字) 問題2 問1 <出題意図> 論理的思考力、表現力を見る。 <解答例> NASA の事故は単位の誤りが莫大な損害を引き起こす深刻な例として示されている。ワクチンの誤予約やストーンヘンジの大きさのミスは、身近な場面でも単位ミスが思わぬ影響を及ぼすことを笑いを誘うかたちで伝え、読者の関心を引く役割を果たしている。これらの対比により、様々な場面での測定の誤りの重要性が強調されている。(150字) 問2 <出題意図> 論理的思考力、理解力、表現力を見る。 <解答例> A: 300ミリリットルの線に水面を合わせる際に表面張力で少しずれるといった誤差が生じる可能性がある。 B: A の結果を10倍して計算することで、A で生じる誤差を大きく広げる可能性がある。 問3 <出題意図> 論理的思考力、理解力、表現力、発想力を見る。 <解答例> (1)測定精度の高さと、測定が目的に対して妥当かどうかは区別すべきである。「確固たる測定」は精密で実施しやすいが、いつもすべきとは限らない。目的によっては精密ではない「柔軟な測定」で十分なこともある。(97字) (2)ハミングの考え方は、例えば料理を作る際に生かせる考える。私は毎日帰宅後に家族の夕食を作っているが、ある程度美味しい料理をつくるという目的のためには、水や調味料といった材料を厳密にグラムやミリリットル単位で測る必要はなく、「具材が浸かる程度の水」とか「塩小さじ一杯」といった「柔軟」な測定で十分であることが分かっている。とはいえ、「小さじ一杯程度」が適切な量であるところを「小さじ大盛」にすると失敗する可能性もあるので、目的に応じた適切な精度に留まるように気を付けなければならない。(241字)
--	---